

七高僧シリーズ その7

第七祖 源空(法然)聖人(げんくう(ほうねん)しょうにん)

1133年~1212年1月25日

著作: 選択本願念仏集(せんじゃくほんがんねんぶつしゅう)

略伝

源空とは、法然上人の本名で、親鸞聖人は、法然上人を本師(根本の師匠)と仰がれていました。

岡山県の生まれ。

9歳で父と死別・出家。

18歳の時、法然房と号し、43歳の時、源信和尚の「往生要集(おうじょうようしゅう)」を読み、また善導大師の「観経疏(かんぎょうしゅ)」と出会い、専修念仏に帰し、後に「選択(せんじゃく)本願念仏集」を著して、浄土宗を興し、多くの門弟を育てられ、親鸞聖人もその内の一人です。

法然上人は、若い時から仏教を広く学ばれ「智慧第一の法然房」と呼ばれるほどの名声でしたが、本人は真実の教えを感得することができず苦悶されました。

しかし、とうとう善導大師の『観経疏』のご文から選択本願念仏の真実の宗教(仏教)を明らかにされたのでした。法然上人は、善悪の凡夫すべてに慈悲の心をもって憐愍(あわれむ)し、教化されました。

そのこともあって念仏の教えは広まりますが、自力聖道門中心の比叡山延暦寺や奈良興福寺などの弾圧にあいます。それでも念仏の教えは戦社会(悪世)に弘まって行きました。

親鸞聖人は、法然上人の聖道門に対する浄土門(念仏の教え)をさらに体系化し、『教行信証』に信心正因の念仏思想として確立されましたが、その興りは師である法然上人だと、謙虚に自覚されています。



源空(法然)聖人



修復作業の途中



欄間を修復中

貴重なショットです。お盆前には、修復された欄間をご披露いたしますので、お楽しみに。

さて、六月の法要、安居会(夏の法要)ですが、残念ながら大事をとり、開催を取り止めと致しました。緊急事態宣言が解除されたとは言え、第二波を懸念します。寂しい事です。が、今は、もうしばらく辛抱の時なのでしょう。

そんな中、現在、本堂の内陣と外陣の間にある、七枚の欄間を修復中であり。修復期間は約半年。今は写真のように、本堂上部の欄間が取り外され、風通しが良くなっております。もう一枚の写真は、修復途中の工房内で撮影された

住職レター

私は、時代に取り残された感を抱いております。他人と接触しない、ソーシャルディスタンスで人と距離を保つ...、人肌のぬくもりを感じる心まで、失われてはと思いますが...